

○クランボルツ教授に学ぶ計画的偶発性理論とは？

(2020年06月15日 藤田聡 キャリアプラン・リーダーシップガイド)

.....

クランボルツ教授の「計画的偶発性理論」はキャリア形成に役立つ！

「計画的偶発性理論」は、スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授によって提唱された。「個人のキャリアの8割は予想しない偶発的なことによって決定される」とし、その偶然を計画的に設計して自分のキャリアを良いものにしていこう、というキャリアパスに関するポジティブな考え方です。

「計画された偶発性」理論の背景と基本的な考え方

20世紀末に発表されたこの理論が米国で注目を集めた背景には、「自分のキャリアは自分自身で意図的に職歴を積み上げて形成するもの」という従来型のキャリア論の限界がありました。それまでは「自分の興味、適性、能力、周囲の環境などを合理的に分析すれば、目指すべき最終ゴールやそこへ至るステップアップの道筋までが明確になる」はずと考えられてきましたが、実際にはそうしたアプローチが必ずしも有効とは限らないことが分かっていたのです。

むしろ変化の激しい時代において、あらかじめキャリアを計画したり、計画したキャリアに固執したりすることは非現実的であり、すべきでない、とクランボルツ教授は指摘します。自分が何をしたいかの意思決定にこだわり、一つの仕事や職業を選びとることは、とりもなおさず、それ以外の可能性を捨ててしまうことに繋がるからです。

「計画された偶発性」理論を実践するための五箇条

「計画された偶発性理論」では、個人のキャリア形成をもっと幅広くとらえ、「キャリアの8割が予期しない出来事や偶然の出会いによって決定される」と考えます。その予期しない出来事をただ待つだけでなく、自ら創り出せるように積極的に行動したり、周囲の出来事に神経を研ぎ澄ませたりして、偶然を意図的・計画的にステップアップの機会へと変えていくべきだというのが同理論の中心となる考え方です。

これを実践するために必要な行動指針として、教授は次の5つを掲げています。

1. 好奇心：たえず新しい学習の機会を模索し続けること
2. 持続性：失敗に屈せず、努力し続けること
3. 楽観性：新しい機会は必ず実現する、可能になるとポジティブに考えること
4. 柔軟性：こだわりを捨て、信念、概念、態度、行動を変えること
5. 冒険心：結果が不確実でも、リスクを取って行動を起こすこと

自分の方向性を定め、アンテナは高く

新しいことを怖がらず、失敗してもめげないで、直ぐに行動する習慣を持ち、そうした姿勢で常にアンテナを高く立てていれば、自分に有用な情報や人が向こうからやってくるのではないのでしょうか。

ただ、漠然とでもいいので、「こういう仕事がしたい」「こういう感じになりたい」という自分の進みたい方向性を定めておくことが大切です。方向性が定まっていないとアンテナの高さと感度が不安定で、大事な種を見つけにくいからです。あなたも、新しい人やものに出会う機会は少なくないはずです。そうした時、異質なものに関心を持って、取り組んでください。偶然のように見えて、実は偶然ではないかもしれません。

「出会い」と「出来事」を大切に

人との「縁」や「出会い」はキャリア開発において非常に重要な要素です。ガイドの私もこれまでのキャリアを考えると、まさに人との出会いによって新しい道が拓かれてきています。転職経験を振り返っても、節目節目の指針となったのは人からの導きに他ならず、自分一人だけで考え行動した結果とは言えません。そういう意味で、当たり前のことですが、皆さんも出会いを大切にすることです。特に、ジャンルを問わず共感を抱くことのできるインパクトのある方との繋がり大切にされるとよいと思います。

もう一つ大事なのが「出来事」です。つまり、成功体験や失敗体験から如何に謙虚に学ぶことができるか、ということです。特に失敗の機会というのは、自己成長にとっての「計画された偶然」のようなものと言えるかもしれません。過信しない程度に自信を持ち、常に学び続ける姿勢こそが自己成長の上で重要なことなのでしょう。

「振り返って見ると、あれは必然的な偶然だったな」という「出会い」や「出来事」がありませんか？それらを大切にしてください。「出会い」と「出来事」のキャリアにおける影響度は人それぞれ違うのですが、ガイドの私のなかでは、「出会い」という言葉がより「チャンス」という言葉とオーバーラップするのです。